

## ウクライナ侵攻を台湾から見る



台北の総統府(蔡英文の職場)にて：撮影 高橋

### ▼ 目次【VOL.144】

- 2-3 世界の今を知る
- 4-5 FUNN活動報告
- 6 FUNN加盟団体活動報告
- 7 お知らせ
- 8 NGO相談員活動報告

2022年2月24日、ロシアによるウクライナ軍事侵攻が開始しました。日本でも様々な報道がされていますが、今回は、日本の隣国である台湾からウクライナ侵攻について見ていきましょう。

日本のメディアの中には、台湾=ウクライナ、中国=ロシアとを結びつけ、中国の台湾侵攻の可能性を示唆するものが一部では見受けられます。しかし、台湾現地メディアの報道は実際どのようなものでしょうか？

今回の執筆は、「リモート倶楽部FUNN 8月」にもご登壇いただいた、立教大学アジア地域研究所特任研究員で今号から本誌編集委員でもある高橋孝治さん。高橋さんが精通する台湾現地からのレポートをお届けします。

## ウクライナ侵攻を台湾から見る

2022年2月24日に、ロシア連邦（以下「ロシア」といいます）の大統領ウラジーミル・プーチン（以下「プーチン」といいます）がウクライナでの軍事作戦を開始するという演説をし、その後、ウクライナの首都キーウ近辺を含むウクライナ各地に対しロシアの軍隊が砲撃を開始しました（これを「ウクライナ侵攻」といいます）。ウクライナ侵攻については、日本でも多くの報道がなされているので、ここでは触れず、台湾について見ていきましょう。日本でも、ロシアを中華人民共和国（以下「中国」といいます）に、ウクライナを台湾に例えて、ウクライナ侵攻が起こったのだから、中国も台湾に侵攻するはずだという言説が一部でなされています。このような言説に対して、台湾ではどのように考えられているのでしょうか。結論から言うと、台湾では上記のような言説は「バカバカしい言説」と捉えられています。例えば、台湾の新聞である『聯合報』2022年2月28日付A2面の「十分な知識があれば、台湾は香港やウクライナとはならないことが分かる」（註1）という社説では以下のように述べています。

“ウクライナ侵攻が勃発している状況下で、多くの外国がロシアを中国に、プーチンを習近平に例えて、「今日のウクライナは、明日の台湾だ」との論を展開している。これは、数年前にあった「今日の香港は、明日の台湾だ」との論と同様に、多くの民衆を感わず戯言に過ぎない。中華民国（台湾）は、れっきとした独立国家であり、香港のような植民地から中国の特別行政区になったような地区ではない。また、ウクライナはもともとソビエト連邦構成国で、独立後に民族主義的差

別に走り、国民意識を束ねられなかったが、台湾ではそのようなことはない。台湾をウクライナと見るのは、情報弱者の浅知恵と言える。このような主張がなされるのは台湾人を不快にするだけである。「今日の香港は、明日の台湾だ」と言われて、今、台湾が香港のようになっているだろうか。それと同じことである “

以上が当該社説の概要ですが、原文では「情報弱者」や「浅知恵」、「不快」など強い言葉を用いてウクライナと同様に見る論を批判しています。しかし、このような主張は『聯合報』の社説だけではありません。同じく台湾の主要新聞の一つである『自由時報』2022年3月14日付A2面の「今日のプーチンは、明日の習近平？」（註2）という社説では、「今日のウクライナは、明日の台湾」という言説はいたずらに台湾人に恐怖心を植え付け、中国の台湾への軍事侵攻がないにもかかわらず台湾人を気持ちで敗けさせる陰謀言説であると断じています。もっとも、同社説は、台湾をウクライナと対比することは陰謀言説ではあるが、資源的にも経済的にも台湾は中国にはかなわないため、警戒は怠らず、国際社会と協力して防衛計画を考える必要があるとも述べています。

また、台湾でシェアは大きくないものの『中國時報』という新聞の2022年3月8日付A2面「中台は共に、台湾はウクライナではないと認識している」（註3）という社説でも、同様に台湾はウクライナではないと述べつつも、台湾は軍事力では中国にはかなわず、中台交流を深化させ中台関係を良好にすべきであるとの論を展開しています。軍事的防衛を考えるよりも、よほど平和的かつ現実的な言説と言えるでしょう。なお、『自由時報』

2022年2月28日付A16面では、なぜ台湾はウクライナとは違うのかが記載されています。これによれば、台湾の経済規模や台湾の軍隊の能力、軍事侵攻がしにくい台湾海峡があること、アメリカ合衆国にとっての重要性がウクライナより大きいことなどをあげています。

もっとも、台湾でも「今日のウクライナは、明日の台湾」という言説を単に否定するわけではなく、ウクライナ侵攻が発生したことを理由として、台湾人の兵役の期間を現在の4か月から1年に延長しようという議論が出てきています(註4)。このように、「中国の軍事侵攻に備えて」とは言わないものの、「ウクライナ侵攻が発生したため」という理由で、台湾も自身の防衛について対応しています。しかし、「今日のウクライナは、明日の台湾」という言説に対して、「浅知恵」、「不快」、「恐怖心をあおるだけの陰謀言説」と断じられていることも事実です。

そして、問題なのは、「今日のウクライナは、明日の台湾」という言説が台湾ではこのように捉えられているということが日本などではほとんど報じられていないということです。国際問題は相手がある問題です。ある主張をして、それが相手国でどのように捉えられているかをしっかりと把握しながら主張することこそが国際問題や国際協力には必要な作法なのではないでしょうか。(高橋孝治・本誌編集委員)

(註1)当該社説のタイトル原文は「只要夠明智、台灣不會變成香港或烏克蘭」

(註2) 当該社説のタイトル原文は「今日普廷 明日習近平？」

(註3)当該社説のタイトル原文は「兩岸有共識 台灣不是烏克蘭」

(註4)「兵役是政治問題 防長有口難言」『聯合報』(2022年3月24日付) A6面



## 多文化共生コラム ④

第4回目の多文化共生コラムのテーマは、在留資格「技術・人文知識・国際業務」についてです。今回も、FUNNで長期ボランティアとして活動している岡本遥香さんに執筆いただきました。

「技術・人文知識・国際業務」の在留資格とは、外国人が日本の企業などで働くにあたって必要な在留資格です。出入国在留管理庁によると、「本邦の公私の機関との契約に基づいて行う理学，工学その他の自然科学の分野若しくは法律学，経済学，社会学その他の人文科学の分野に属する技術若しくは知識を要する業務又は外国の文化に基盤を有する思考若しくは感受性を必要とする業務に従事する活動」がこの在留資格に含まれる活動であると制定されています。具体的には、技術分野として機械工学等の技術者、人文知識分野として営業、経理などの事務職、国際業務分野として英会話学校などの語学教師、通訳などの職業が例として挙げられます。令和3年度の統計では上記の在留資格を持つ在留外国人の人口は283,259人と多く、またその職業例を見ても私たちのすぐ近くで大勢の人が働いていると分かります。これらの在留資格を持つ人の雇用も、他の在留資格と同じく細かな基準があり、雇用する側もされる側も正しい基準や情報を知ることが必要です。様々な知識や経験を活かすことのできる技術・人文知識・国際業務の在留資格は日本の企業などにとっても、日本で働くことを望む外国人にとっても重要かつ有意義な在留資格のひとつです。

・法務省 出入国在留管理庁「技術・人文知識・国際業務」

・厚生労働省「我が国で就労する外国人のカテゴリー」

・法務省 出入国在留管理庁「令和3年6月末現在における在留外国人人数について」



## 九州国際大学出張授業

6月21日（火）、九州国際大学の国際協力実践論の1時間をいただき、出張授業を実施させていただきました。この出張授業には、FUNNだけでなくFUNN加盟団体の3団体（ISAPH様、九州海外協力協会様、FIWC九州様）も各週で授業を担当していただきました。

FUNNが担当した授業では、世界の現状を踏まえた一般的な国際協力概論や、ODAと比較したNGOによる国際協力活動の特色、自身のアフリカでの経験を踏まえた、大学生のうちにやってほしい活動などについてお話をさせていただきました。50名ほどの学生さんの前でお話しするのはかなり緊張しましたが、皆さん暖かく、真剣に聞いてくださっている様子で、途中のクイズも盛り上がったのではないかと思います。

今回の授業が、未来を担う若者たちの、今後の生き方を考える材料として少しでもお役に立てればよいなと思いました。また、このような機会を通じて、市民の方々にNGOの活動を知っていただけることは大変ありがたいと感じました。（加藤）



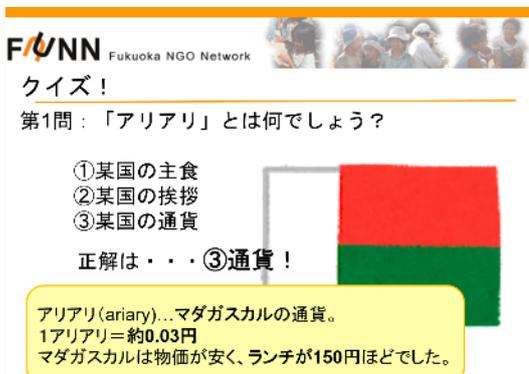
## FUNN加盟団体懇親会

7月29日（金）に加盟団体懇親会を開催いたしました。今回はFUNNの加盟団体様に加えて、宮崎県のNGOであるアジア砒素ネットワーク様にもご参加いただきました。本懇親会は、NGO団体同士の親睦を深め、他団体様から活動のヒントを得ることを目的としており、各団体の抱える大小さまざまな悩みなどを、井戸端会議的に共有・お話していただく場です。

今回の懇親会では、NGOを取り巻く環境や政府・行政との関り方などについての意見交換、広報の仕方についてのお悩み相談、各団体での連携の可能性の模索など自由にお話しいただきました。本懇親会の後、参加団体様から「あの団体さんと繋がりたい」とのご連絡をいただき、実際に先方の許可を得た上でFUNNがお繋ぎさせていただきました。

このような企画がNGOネットワークの強化、各団体様の活動の更なるご発展の足掛かりとなったことを大変うれしく感じております。年に2回の定期開催で、次回は2022年度冬季を予定しております。

（加藤）



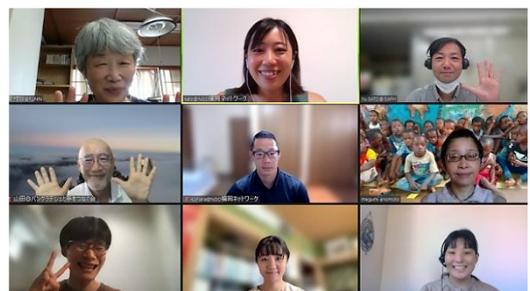
▲ 学生さんに出题したクイズ

▶ 九国大校舎。近くにJICA九州センターもあります



### 今回の参加団体一覧（順不同）

- ・ ISAPH様
- ・ バングラデシュと手をつなぐ会様
- ・ モザンビークのいのちをつなぐ会様
- ・ アジア砒素ネットワーク様
- ・ NGO福岡ネットワーク（FUNN）



▲ スムーズな司会進行ができる学生ボランティアの岡本さんが大活躍（右最下段）



# インターン・ボランティア紹介



【インターン】  
高口 ひな さん  
佐賀大学2年在籍

## ◎インターンへの意気込み

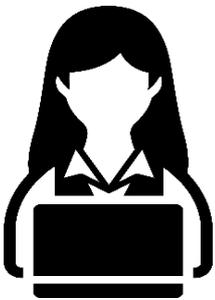
今回のインターン（8～9月）では、国際問題について現状と課題を正確に理解し、解決に向けて現在どのような取り組みが行われているか、また解決のためのアプローチを自分なりに模索したいです。また、国際問題を知らない人や関心のない人を含め、多くの方に知ってもらうにはどうしたらいいのかを、イベント等を通して考えていきたいです。



【ボランティア】  
徳永 さわ さん  
西南学院大学3年在籍

## ◎なぜボランティアに？

私がFUNNでボランティアをしようと思ったきっかけは、今までにボランティアの経験もあり、また、国際協力にも興味があったからです。私は大学3年生で、将来のことを考え、悩んでいる時にFUNNと繋がりがあの方の話を聞き、実際に会って、いろいろお話を聞きたいと思い、訪問しました。これから色々な活動を知って行けたらいいなと思っています。



【ボランティア】  
ペンネーム：ばりおば さん

## ◎なぜボランティアに？

私がなぜFUNNでボランティアをしようと思ったか、原点は子供時代の戦争体験を親から聴いて育ったからです。「いち市民でも平和の為に何かできるはず」という想いからでした。FUNN主催のNGOカレッジに参加でき、メンバーの方々の誠実さに触れることができたことで、ようやく一歩を踏み出すことができました。自分ができることは些細なことだと思いますが、地道に継続できたらと思っています。



【編集委員（ボランティア）】  
高橋 孝治 さん  
立教大学 アジア地域研究所  
特任研究員

## ◎なぜボランティアに？

中国や台湾を対象とした地域研究を行っており、これまで東アジアを行ったり来たりしておりました。そんな中、東アジアのリアリティある情報を日本に伝えたい、単に自分が「東アジアを知る」だけではなく、国際協力の場で協力したいと思い、ボランティア編集委員をやらせていただくことになりました。これから誌上でよろしく願いいたします。



## 加盟団体活動報告（ISAPH事務局より）

### マラウイ 母と子の「最初の1000日」に配慮したコミュニティ栄養改善プロジェクト(JICA草の根技術協力事業)報告会

6月30日、雪の聖母会聖マリア病院とISAPHが共同で実施したJICA草の根技術協力事業「マラウイ 母と子の『最初の1000日』に配慮したコミュニティ栄養改善プロジェクト」の報告会を開催しました。当事業は2018年5月～2021年12月に実施したもので、終了時調査からは、子どもたちの慢性的な栄養不良（主に低身長）の改善が確認されています。

イベントには、大学（院）生や教員など30名近くの方に参加登録をいただきました。質疑応答では、農業活動における生物多様性への影響、いかに住民の食行動を改善するかなど、深い議論にまで発展しました。同時に開催した座談会では、JICA九州の東さん、FUNNの安村事務局長のご協力の下、ISAPHが本事業を通して気づいたNPO/NGO/CSOとして課題について、参加者と共有することができました。安村事務局長からは、私たちが「良い事業」をすれば自動的に組織が維持されるわけではないことを、最近のデータを使って説明いただきました。



◀チラシはポップにデザイン

### ISAPH18周年記念イベントの開催



2022年7月1日、ISAPHは18周年を迎えました。日頃から連携をしているNPO法人Colorbath吉川さんと議論して、無料のオンラインイベントを企画しました。テーマは「ISAPHの事業を通して考える、NPO/NGOの草の根活動」というもので、FUNNの小原さん、JICAデスク福岡の鬼丸さん、株式会社TAネットワーキングの磯さん、国際協力に携わる多様なバックグラウンドの専門家をお招きし、計20名の参加者とパネルディスカッションを楽しみました。

これまでISAPHは、オンラインイベントを単独で実施することはありましたが、このような形で協働させていただくのは初めて。吉川さんの核心をついた疑問や、参加者からの鋭い質問によって、自分たちの活動がどのように見えるのか、見られているのかを知る機会になりました。投げかけられた問いに対して、明確に回答できない部分があることに気づくことができ、様々な人に組織・活動を見てもらうことの大切さも実感しました。国際協力に携わる仲間は決して「競争相手」ではありませんが、時には批判的に見つめ合い、切磋琢磨する姿勢も重要なかもしれません。



▲Colorbath代表・吉川さんの敏腕司会で進行しました

## ☆ その他お知らせ

モザンビークのいのちをつなぐ会  
「寺子屋マンスリーサポーター募集」

マンスリーサポートに  
月々3000円コースを追加！  
この機会にぜひメンバーに！

月会員の  
お願い

# 寺子屋マンスリーサポーター

寺子屋の子どもたちの食費、奨学用品、進学等をサポートする  
マンスリーサポーターを大募集しています。

マンスリーサポートはこちら



国内最大のクラウドファンディング・CAMPFIREの中の社会問題と向き合う人向けサービス GoodMorning からご寄付いただけます。

その他の  
ご支援の  
方法



随時/月/年サポート

寄付プラットフォームサービス  
Syncable (シンカブル)  
でご寄付いただけます。

銀行振込

【三井住友銀行】天神町支店：717 (普) 1920099  
【楽天銀行】第3営業支店：253 (普) 7270104  
名義：一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会  
※寄付者把握のため、なるべく氏名とご住所を メールしてください。

Paypal [ペイパル]



一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会 (PVM)

日本事務所：〒800-0233 福岡県北九州市小倉南区朽網西3-12-6

パンバ事務所：Rua sem Saida, Bairro de Natite, Pemba, Mozambique

Email : enomegu@gmail.com

may@tsunagukai.com

<http://www.tsunagukai.com/>



展覧会『匿名の女性たち』に行ってきました！

### “ミャンマーの人々につながる”

6月初旬、福岡のアートスペース・テトラで「匿名の女性たち—私は当事者ではない」を見た。ミャンマー人女性アーティスト9人による展覧会だ。昨年2月の軍クーデターから1年後、ロシアのウクライナ侵攻にかき消され、ミャンマーのニュースを聞かなくなった。どうなっているのだろう。大都市は一見安定を取り戻したようだが、UNHCRによると全土での軍による無差別な暴力や国境地域での少数民族と軍の争いにより、100万人以上が国内避難している。そんな中、日本政府には経済協力再開の動きもあると、7月、NGOが抗議の共同声明を出している。

展覧会では、犠牲となった市民の顔の折り紙アートや、写真や絵画、身体表現など、匿名なのに…だからこそ、私達を見て、忘れないで、という思いが迫ってきた。

会場の一角にあった三本指マークのビール。「M子が私達を助けるために作ってくれたの。」ミャンマー人の女性が目を輝かせて説明してくれた。売上を支援に充てたそうだ。こんな繋がりが広がっていき、ミャンマーの人々に安心して暮らせる日常が戻ることを祈らずにいられない。(安村)



# 外務省NGO相談員活動レポート



## ◎みやざきインターナショナルフェスタに参加しました【出張サービス】

6月12日に宮崎市にて開催されたみやざきインターナショナルフェスタに出展させていただきました！ブースでは来場された市民の方からの国際協力に関するご質問や相談をお受けした他、九州のNGO団体の活動紹介のパネル展示やチラシ配布を行いました。訪れた方からは「九州にこんなに沢山NGO団体があると知らなかった」や「将来国際協力に関わりたいのでいろんな情報を知れて良かった」等のお声をいただきました。



## ◎中学生から難民問題に関する相談を受けました

7月上旬、FUNNN事務所にて中学生から難民問題について教えてほしいと相談がありました。なぜ「難民」と呼ばれる人が発生するのか、支援をする際に難しいこと、また解決するために中学生でもできることを解説しました。話の中で難民問題を他人事と捉えず自分たちにも関係があるという「共感力」が必要であり、そこから自分たちは何ができるのかを考える重要性を理解していただきました。

FUNNNは外務省から委託を受け「NGO相談員」として一般市民や企業、教育機関、行政関係者の国際協力に関するご相談を無料でお受けしております。コロナ感染予防対策を行った上での対面での相談や、出張サービス、ビデオ会議システムを使用してオンライン上でも対応可能です。お問い合わせは横のQRコード、もしくは下記の電話番号・メールアドレスまでご連絡ください。



### 編集後記

国際協力ニュース担当の小原です。私事ではありますが、9月末でFUNNNを退職いたします。約2年間、広報担当として様々な経験を積む事ができました。この場をお借りして皆様に御礼申し上げます。今後とも何卒FUNNNをよろしく願いいたします。



### 正会員団体リスト (19団体)

- \* (特活) ISAPH
- \* アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- \* (特活) アジア女性センター
- \* (特活) 九州海外協力協会
- \* 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- \* 佐賀NGOネットワーク
- \* JVC九州ネットワーク
- \* (特活) じゃっど
- \* 認定NPO法人地球市民の会
- \* チベットを知る会
- \* NPO法人トウマンハティふくおか
- \* ネパール歯科医療協会(ADCN)
- \* 芭蕉繊維研究会
- \* (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- \* PP21ふくおか自由学校
- \* 福岡YMCA
- \* フレンズ国際ワークキャンプ九州
- \* (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- \* モザンビークのいのちをつなぐ会

NGO福岡ネットワーク **FUNNN**

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



\* 国際協力ニュースに関するご意見募集中です \*

#### ◆会費・寄付の振込先◆

#### 【郵便振替】

加入者名：NGO福岡ネットワーク

口座番号：01790-7-89478

#### 【西日本シティ銀行】

加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク

カナ名：トクヒ) エヌジーオーフクオカネットワーク

支店番号：208 (赤坂門支店)

口座番号：普通 1641291

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-6-1

小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

TEL: 092-405-9870

Mail: funn@ngofukuoka.net

https://ngofukuoka.net/

\* 営業時間：火～土 13:00～18:00

\* 日・月・祝：休み